



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

## 未来につなげよう！ふるさと赤崎！

本校は平成15年度より、総合的な学習の時間の在り方について、子どもの活動の場を地域に求め、地域の人・こと・ものを環境・エネルギーからの視点で取り上げて、継続的にまた繰り返し体験活動を行い、地域で生きる人の生き方（願いや思い、行動）に触れ、自分のあり方を考える学習を積み重ねてきた。

年度ごとにカリキュラムを見直し、私たちの町「赤崎」のよさを地域に伝え、次世代につなげていく児童の育成に力を注いでいる。本年度のカリキュラムは以下の通りである。

総合的な学習の時間 赤崎プラン（学校カリキュラム）		
○ 地域の人や社会、自然に繰り返しかわる意識の連続・発展を目指した学習 ○ 地域の人・もの・ことに深くかかわる探究的・協同的な学習		
	単元名	
3年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「小石ちょうちん山笠をもちあげよう」 【郷土・環境】</p> <p>自分たちの願いを込めた山笠を作製し、地域の伝統行事「小石ちょうちん山笠」に参加することで、地域への愛着と誇りに思う心を育む。 GT：保存会の方々</p> <p>【他教科との関連】 社会「まちに伝わる祭りや行事」 道徳「心の花たば」（中4-⑤郷土愛）</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「生き生きおじいちゃん・おばあちゃん」 【福祉・健康】</p> <p>地域に住む年長者を訪問する活動を通して、年長者の趣味や健康について知り、生きがいや楽しく生きることの大切さに気付かせ、自分の健康などについて考えることができる。 GT：地域のお年寄りの方々</p> <p>【他教科との関連】 国語「すじ道を立てて話そう」 道徳「おじいさんとぼく」（中4-③家族愛）</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ごみを出さない生活を目指そう」 【環境】</p> <p>児童の生活に身近な空き缶のリサイクル活動を体験し、生活に使うものを再利用する仕組みを理解し、資源の有効利用の視点から、自分たちの生活の仕方を考える。 GT：カーズ・環境ミュージアムの方々</p> <p>【他教科との関連】 国語「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」 社会「ごみはどこへ」</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「共に生きよう」 【福祉・健康】</p> <p>盲導犬や点字等の学習、体験を通して体に障がいをもった人たちが住みよい町にするために、自分たちができることを考える。 GT：視覚障害者 Sさん</p> <p>【他教科との関連】 国語「調べて発表しよう」手と心で読む 道徳「かっぱの里 筑前若松」（中4-⑤郷土愛）</p> </div>
5年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「わたしたちの町に森を作ろう」 【環境】</p> <p>産業廃棄物の処理について関心を高め、エコタウンの意義を知り、資源循環型社会の実現とエコ生活について考える。また、森林の働きを理解し、緑の回廊作りに参加する。 GT：森の専門家・環境局の方</p> <p>【他教科との関連】 社会「森林と生きる」「くらしを支える情報」 道徳「世界の文化遺産」（高4-⑦郷土愛・愛国心）</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「いのちをみつめて」 【福祉・健康】</p> <p>乳児保育所を訪ね、ミニ保育士体験をすることで、生命の大切さや自分の生き方を考える。 GT：深町どんぐりのもり保育所子ども、職員</p> <p>【他教科との関連】 理科「人のたんじょう」 体育（保健）「病気の予防」（心の健康） 道徳「家族の紹介」</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「エネルギーと環境～赤崎から発信！今私たちにできること～」 【環境】</p> <p>校区にある風力発電や若松電源開発について調べ、CO<sub>2</sub>の発生をおさえた新エネルギーの大切さに気付かせ、地球環境について考え、自分たちにできることを実行する。 GT：電源開発の方々</p> <p>【他教科との関連】 理科「電気の性質とはたらき」 家庭「くふうしよう 朝の生活」</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「高齢者とともに生きる」 【福祉・健康】</p> <p>けやきの杜の方との交流を基に、高齢者福祉や老人介護について調べ、年長者とともに生きる社会の実現について考える。 GT：けやきの杜の入居者、職員</p> <p>【他教科との関連】 社会「暮らしの中の政治」 道徳「言葉の力、わたしの思い」（高2-②思いやり・親切）</p> </div>

地域を知ることを通して、地域を大切にすることを養い、持続可能な地域社会の担い手の育成に取り組んでいる。

## 本年度の各学年の取り組み

各学年、環境（郷土）分野の1実践を紹介する。

### 3年生 「小石ちょうちん山笠をもちあげよう」

学習したことや体験を通して、地域を大切にしていきたいなどの思いを込めて山笠を作成した。祭り当日は自分たちで作った山笠をかつぎ、地域の方々と一緒になって祭りを盛り上げていった。単元終了後の児童の感想には、「地域の人となかよくなってよかったです。」「地域の人といっしょにお祭りをして小石のよいところを見つけました。」という内容が多かった。この言葉には、児童が主体的に活動し、自信と地域を愛する心が育った姿が見受けられる。



### 4年生 「ごみを出さない生活をめざそう」

社会科「ごみはどこへ」の学習と関連を図り、清掃工場や空き缶リサイクル工場を見学して学んだことを基に、「ごみを出さないようにするにはどうすればよいか」学習してきた。そして、自分たちにできることは何か考え、全校児童を巻き込んだ空き缶リサイクル活動に取り組んでいる。本年度は、昨年度から行われている空き缶を持ってきてくれた人から空き缶を受け取り、名前をメモしてスタンプカードにスタンプを押す、空き缶を持参した児童の名前を昼の校内放送で紹介し、他の学年の児童が継続的に協力してもらえるように呼びかけている他に、のぼりを作成して、全校に空き缶やの回収を呼びかけた。学習が終わった今でもなおこの活動は続けられている。またこの活動は、学校内だけでなく、保護者や地域と一体となった継続的な活動であり、地域にも資源回収の意識が定着している。これは、持続可能な社会の担い手を育むことを目標としているESDの視点からも意義のある活動である。

今日空き缶を持って来てくれた人は・・・



### 5年生 「わたしたちのまちに森をつくろう」

本単元は「エコタウンについて調べる」「わたしたちのまちに森をつくろう」の2部構成で学習を進めた。

初めに、エコタウンを緑の森にしようという計画があるという事実に出合わせるため、環境局の方に来校して頂いた。児童は、「緑の回廊構想」計画に賛同し、どんぐり集めを行うようにした。そこで、どんぐり拾いの体験活動を行った。児童の熱心な活動の結果、1万個を超えるどんぐりを集めることができた。環境局の方





がどんぐりが入った 15 個のバケツを提示し、「エコタウンを緑の森にするためには、こんなにたくさんのどんぐりが必要です。」と言われ、どうすればよいか考え「専門の方に呼びかけ、どんぐりの苗づくりを手伝ってもらおう。」という思いをもつようになった。「手伝ってもらうためには、森を作ったらどんなよいことがあるか分かったら、手伝いたいと思うようになるよね。」という教師



みなさんと一緒にどんぐりの苗木作りができてよかったです。これから1年と4か月お世話をよろしくお願いします。そして、1年4か月後、植樹会で一緒に苗木を植えて、わたしたちの町赤崎に森を作りましょう。(一部抜粋)

の提案を基に、学習問題「森のよさや大切さを知らせ合い、森づくりに協力しよう。」を設定した。

児童が集めたどんぐりで、環境局の方と苗木作りを行った。苗木作りが終わった後、上記のような話を環境局の方にしていただいた。児童は熱心に聞き、苗木の世話に意欲的に取り組もうとする姿勢やこれからの赤崎の町をどのように変えたいかという希望が学習後の感想文からもうかがえる。そして、卒業後、緑の回廊植樹地に児童が育てたどんぐりの苗木を地域の方や企業の方と、渡り鳥を誘導する緑の回廊になることを願って植樹する。

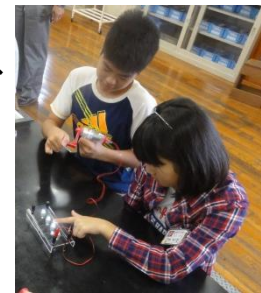
**苗木作り後のM児のワークシートへの記述内容**

○ 今日保存していたどんぐりを使って苗木作りを行いました。ぼくたちの先ばいの木のように大きくなってほしいので、お世話をしっかりしようと思いました。そして、ぼくたちの町が緑がいっぱいで、渡り鳥が来る町になってほしいです。今からそのことを考えるとワクワクします。

**6年生 「エネルギーと環境 ～赤崎から伝えます！私たちにできることを～」**

本単元は、「現在の日本の発電の様子」「電気エネルギーを有効に使うために、自分たちにできること」の2部構成で学習を進めた。

はじめに、もし電気がなくなるとできなくなることは何か、どんなことに困るかについて話し合った。児童は、「テレビが見られない」「信号機が使えないので事故が起こる」など、自分の生活と関連付けた意見が多く出された。そして理科「電気の性質とはたらき」との関連を図り、手回し発電機による発電の体験につないだ。手回し発電機による発電を行った際、自分たちが作った電気がどれくらいかを把握させるために、検流計を使ったり、実際の電力を求める公式（電力(W) = 電圧(V) × 電流(A)）を使ったりした。その結果、自分たちが発電した電気は蛍光灯1本分にも満たないことを把握させることができた。そして、たくさんの電気をどこで作っているか考えさせ、近くの電源開発会社見学へ意欲をもたせ、次時の学習につないだ。



電源開発会社見学後は、感想や調べてみたいことを出し合い、日本の発電方法や電源開発会社の方の電気に対する思いや願いについて調べて発表し、日本の発電方法の特徴について話し合った。その際、電源開発会社と連携を図り学習を行ったので、発電の仕組みについてより一層理解を深めることができ、電源開発会社の方の電気を作る苦勞を知ることができた。また、インタビューを通して思いや願い（現在、自然のことを考え、自然エネルギーへの変換に努めているが現実的に難しい。だからみんなによい節電方法を考えてほしい）も聞くことができた。そこで自分たちにできることはないか考えさせ、第2部の学習へとつないでい

た。

グループや学級全体で整理・分析をしたり(資料1)話し合ったりして、3つの「赤崎小 節電行動」(資料2)を決めていった。そして決まった節電行動を電源開発会社の方へ知らせ、電源開発会社の方に手紙を書いてもらい評価をしてもらった。その手紙を読んだ児童の感想は資料3にある通りである。児童は手紙を読み、電源開発会社の方の提案を基に、全校児童への発信方法を考えた。その結果、校内放送、ポスター作り、ステッカー作り、手紙配布の4つのグループに分かれ全校児童へ発信していくようにした(資料4)。これから全校に発信し、節電を呼びかける予定である。



資料1 グループでの整理・分析の様子

【資料2】話し合って決めた赤崎小 節電行動

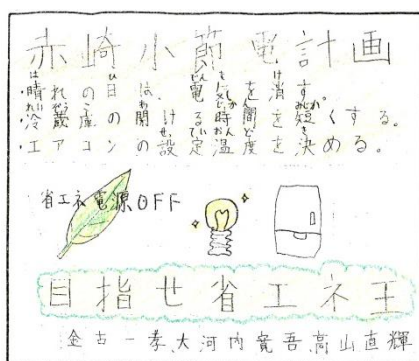
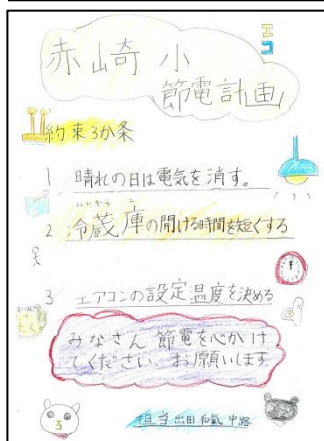
- ・ 晴れの日には照明(電気)を消す。
- ・ 冷蔵庫の開ける時間を短くする。
- ・ エアコンの設定温度を決める。

り、ステッカー作り、手紙配布の4つのグループに分かれ全校児童へ発信していくようにした(資料4)。これから全校に発信し、節電を呼びかける予定である。

【資料3】電源開発会社の方からの手紙を読んだ感想

自分たちが選んだ節電方法が高評価され安心しました。電源開発会社の方から、全校の人たちと一緒に節電してほしいと書かれていたので、その方法を考え発信し、全校の人たちと節電行動に取り組んでいきたいです。

本単元では、伝え合いの場を3つ設定した。これらの伝え合う活動を通して、児童は、節電に



資料4 児童が作成したポスター(左)とステッカー(右)

対する意識を高めることができ、自己の生き方を考えることができるようになった。また、児童の様々な体験活動から得られた情報や個々の気づきを基に、互いに学び合うことを重視した。その結果、新たな気づきの発見や友達との共通点に気付いたり、複数の考えを関連付けたりすることができた。また、学習の目的に合

わせ、集めた情報や様々な意見を整理したり分析したりする学習を位置付けることで、児童の思考を高めていくことができた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )